

JA 九個荘『自己改革』の実践状況

1. 目的

当組合では、「食と農を基軸とした地域に根ざした協同組合」として総合経営を展開し、相互扶助の理念に基づき、

- 「Ⅰ. 持続可能な都市農業の展開」
- 「Ⅱ. 経営基盤の確立による健全・堅実な JA 経営」
- 「Ⅲ. 組合員・地域との関係強化による組織基盤の確立」
- 「Ⅳ. 協同の理念を実践する人材の育成」

などを実現するため、様々な『自己改革』に挑戦しています。

『自己改革』は、組合員の願いを実現し、地域の農業とくらしになくてはならない組織となることを目指す改革であり、当該改革における取り組み等を組合員の皆様と共有するため、『自己改革』の実践状況について開示しております。

2. 方針

『自己改革』実践状況報告については、以下の方針に基づき、作成しております。

- ①『自己改革』実践状況については、その取り組み内容をそれぞれ記載していません。
- ②『自己改革』実践状況報告は、2カ年「令和元年度(平成31年4月1日～令和2年3月31日)・令和2年度(令和2年4月1日～令和3年3月31日)」における取り組みを対象としています。

I. 持続可能な都市農業の展開

多様な販売網の構築により、持続的・安定的に生産供給を目指し、担い手の育成、営農指導の強化を通じ、地域と共生した都市農業の実現に努めます。

実践方策	令和元年度の実践状況	令和2年度の実践状況
・多様な販売網の構築	・他 JA との連携により、加工用新品種米の栽培促進や、お米の販売を行いました。	・前年度に引き続き、他 JA との連携により、加工用新品種米の栽培促進や、お米の販売を行いました。

実践方策	令和元年度の実践状況	令和2年度の実践状況
<ul style="list-style-type: none"> ・朝市、農業まつり、地域の各種イベントへの参加 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的な朝市の開催や、行政等と連携した農業まつりへの参加のほか、各種団体開催のイベント等に地場産野菜の提供を行いました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的な朝市は開催しましたが、行政等と連携した農業まつりや、各種団体開催のイベント等は中止となりました。
<ul style="list-style-type: none"> ・6次産業への取り組み 	<ul style="list-style-type: none"> ・農業研究クラブ会員の方と連携し、地元農産物を使用したキュウリとウリのかす漬(九子ちゃん)、地元のお米を真空パックにした(ひかりのしずく70)を朝市等で販売しました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地元のお米を真空パックにした(ひかりのしずく70)を朝市等で販売しました。
<ul style="list-style-type: none"> ・営農指導・提案力の充実・強化 	<ul style="list-style-type: none"> ・AA・SAA(※1)による営農指導の充実・強化を図るため、資格取得者の増員に努め、AA8名、SAA2名となりました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・前年度に引き続き、AA・SAA(※1)による営農指導の充実・強化を図るため、資格取得者の増員に努め、AA9名、SAA2名となりました。
<ul style="list-style-type: none"> ・農産物栽培講習会の開催 	<ul style="list-style-type: none"> ・農産物栽培講習会を開催し、講習会のテーマごとに内容の充実をはかりました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・農産物栽培講習会は中止となりました。
<ul style="list-style-type: none"> ・農家に対する個別訪問指導の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・個別訪問を実施し、米や野菜の品質向上を目指した栽培指導を行い、農家所得の向上を図る取り組みを行いました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・前年度に引き続き、可能な限り個別訪問を実施し、米や野菜の品質向上を目指した栽培指導を行い、農家所得の向上を図る取り組みを行いました。
<ul style="list-style-type: none"> ・全農等と連携した生産資材の提供 	<ul style="list-style-type: none"> ・全農等と連携し、肥料・農薬等の生産資材について、複数の銘柄を集約して提供しました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・前年度に引き続き、全農等と連携し、肥料・農薬等の生産資材について、複数の銘柄を集約して提供しました。
<ul style="list-style-type: none"> ・肥料・農薬の予約購買の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・従来からの予約購買価格を引き下げて提供し、 	<ul style="list-style-type: none"> ・前年度に引き続き、従来からの予約購買価格を引

実践方策	令和元年度の実践状況	令和2年度の実践状況
	生産者のコスト削減に努めました。	き下げて提供し、生産者のコスト削減に努めました。
・ 水稲苗および春野菜苗の予約購買の推進	・ 水稲苗および春野菜苗を予約購買で申込みいただき、低価格での提供に努めました。	・ 前年度に引き続き、水稲苗および春野菜苗を予約購買で申込みいただき、低価格での提供に努めました。
・ 農作業受託の斡旋	・ 組合員の耕作状況の把握に努め、農作業の受託斡旋を行いました。	・ 前年度に引き続き、組合員の耕作状況の把握に努め、農作業の受託斡旋を行いました。
・ 土壌診断の実施	・ 良質な農産物の栽培を行うため土壌診断を行いました。	・ 前年度に引き続き、良質な農産物の栽培を行うため土壌診断を行いました。
・ 水稲粃だねの温湯消毒の実施	・ 農薬を使用しない水稲粃だねの温湯消毒を行い、環境保全と生産コストの削減に努めました。	・ 前年度に引き続き、農薬を使用しない水稲粃だねの温湯消毒を行い、環境保全と生産コストの削減に努めました。
・ 農地の保全	・ 生産緑地制度の活用を推進するため、税理士による講習会を開催しました。	・ 生産緑地制度の活用を推進するため、回覧等により周知しました。

(※1)・AA (アグリアドバイザー)

組合員等の営農活動全般にわたり、適切な指導・アドバイスを行うことができる基礎的知識と技術の習得を目指し、一定のカリキュラム修了者を認証する制度

・SAA (スーパーアグリアドバイザー)

営農に関する専門的知識と技術の習得をはかり、営農や経済のリーダーとして営農部門の人材養成のための認証試験を実施し合格者を認証する制度

Ⅱ. 経営基盤の確立による健全・堅実なJA経営

激変する環境変化に適応し、効果的・効率的な事業運営と健全性の確保、総合事業の前提となる内部管理態勢の確立をはかります。

実践方策	令和元年度の実践状況	令和2年度の実践状況
・財務の健全性確保	・決算事務処理能力と資産査定事務処理能力の向上を図るため、積極的な研修会への参加と人員確保に努めました。	・前年度に引き続き、決算事務処理能力と資産査定事務処理能力の向上を図りました。
・会計監査人監査の受監態勢の確立	・リスクアプローチ監査(※2)が行われるため、内部統制の整備と適切な運用の確保を図りました。	・前年度に引き続き、内部統制の整備と適切な運用の確保を図りました。
・内部管理態勢の確立	・リスク管理体制およびコンプライアンス態勢の強化を図りました。	・前年度に引き続き、リスク管理体制およびコンプライアンス態勢の強化を図りました。
・内部監査体制の強化	・連合会等と連携し、内部監査強化のための体制整備に努めました。	・前年度に引き続き、連合会等と連携し、内部監査強化のための体制整備に努めました。

(※2)・リスクアプローチ監査

財務諸表の重要な虚偽表示に繋がるリスクのある項目に対して重点的に監査資源を投入し、効果的・効率的に監査を行う手法

Ⅲ. 組合員・地域との関係強化による組織基盤の確立

協同の理念を共有した組織となるため、組合員の声に基づいた JA 運営により、組合員との関係性を再構築するとともに、地域活動の充実・活性化に努めます。

実践方策	令和元年度の実践状況	令和 2 年度の実践状況
・学校給食へのお米・新鮮野菜の提供	・管内 8 校の小学校へ地場産米と新鮮野菜の提供を行いました。	・前年度に引き続き、管内 8 校の小学校へ地場産米と新鮮野菜の提供を行いました。
・小学生の農業体験	・管内小学生へ野菜苗の植え付け指導と、田植え・刈取りの体験を組合員さんとの連携により行いました。	・管内小学校の一部にイチゴ苗等の配布を実施しましたが、植え付け指導や田植・刈取りは中止となりました。
・農業に関する出張授業	・連合会職員と農協職員が小学校に出向き、農業に関する授業を行いました。	・出張授業は中止となりました。
・教材の提供	・管内小・中学校へ「家の光」「チャグリ」等の教材提供を行いました。	・前年度に引き続き、管内小・中学校へ「家の光」「チャグリ」等の教材提供を行いました。
・地域美化運動の推進	・農協店舗周辺の清掃活動を行いました。また、地域の水路清掃活動にも職員が参加しました。	・前年度に引き続き、農協店舗周辺の清掃活動を行いました。また、地域の水路清掃活動にも職員が参加しました。
・地域防犯活動への協力・参加	・職員が地域の防犯活動等に参加しました。	・前年度に引き続き、職員が地域の防犯活動等に参加しました。
・「農協の飲めるごはん」の自販機設置	・「農協の飲めるごはん」は、災害時や備蓄用の非常食として、テレビや新聞等で報道され大きな反響となっており、当 JA 本	・前年度に引き続き、自販機を設置しています。

実践方策	令和元年度の実践状況	令和2年度の実践状況
	所に専用自動販売機を設置しました。この自動販売機は、災害ベンダータイプ（停電時でも飲料を提供できる自販機）となっています。	
・農地の保全	・行政等と連携し、防災協力農地と景観形成農地（レンゲ開放農地）の推進に努めました。	・前年度に引き続き、行政等と連携し、防災協力農地と景観形成農地（レンゲ開放農地）の推進に努めました。

IV.協同の理念を実践する人材の育成

農業協同組合の役職員として、地域・農業・協同の理念を十分理解し、JAの組織・事業・経営を支えていく人材を育成します。

実践方策	令和元年度の実践状況	令和2年度の実践状況
・コンプライアンス管理態勢の充実	・各種コンプライアンス研修会へ役職員が積極的に参加しました。	・各種コンプライアンス研修会が中止となる中、オンライン等の研修会へ参加しました。
・人材育成の強化	・専門研修会への参加や各種の資格取得、自己啓発による受験を奨励しました。	・前年度に引き続き、各種の資格取得、自己啓発による受験を奨励しました。
・日本農業検定の取得	・日本農業検定(※3)の受験を推奨し、7名が資格を取得しました。	・新たに6名が取得し、合計13名となりました。
・栽培運動の実施	・南農業倉庫敷地内において、職員による野菜の栽培を行いました。	・前年度に引き続き、職員による野菜等の栽培を行い、一部朝市で販売しました。

(※3)・日本農業検定

農業についての理解を促進するためにつくられた検定試験で、栽培・農業全般・環境・食の4分野についての基礎的な知識を習得できる検定